



毎日新聞に掲載されました

毎 日 新 聞

2011年(平成23年)3月9日(水)

姫路 神戸

兵庫

22

衣川製鎖工業社長

衣川 良介さん



◆鎖や鉄に関する情報 用の鎖が主流でしたが、アジア勢に押されて日本の造船業が衰退するといふ不安がありました。何

姫路市臨海部の地場産業である鎖づくり。主に船舶用として発展してきたが、近年、中国製に押され気味だ。衣川製鎖工業(姫路市飾磨区阿成渡場)は蓄積した技術を活用してバイク盗難防止用チェーン「かてーな!!」を開発し、全国的なヒットとなった。また、鉄にまつわる面白さを発信する「鉄のふしぎ博物館」を社内に開設し、ものづくりを担う次世代の育成にも努めている。市場のニーズを巧みにつかみ、商品開発につなげている衣川良介社長(65)に取り組みを聞いた。

【聞き手・久野洋】

この人に聞く

「鉄のふしぎ博物館」を併設

ものづくりの担い手育成

きぬがわ・りょうすけ 46年、姫路市出身。大学卒業後、衣川製鎖工業に入社し83年に社長に就任した。同社は「兵庫県発明賞」や「国土交通大臣表彰」などの受賞歴も多い。併設の「鉄のふしぎ博物館」は午前9時～午後6時。要予約。申し込み先は衣川製鎖工業(079・234・1515)。

て「こんなを作った」などと注文が来ますが、特注品もほとんどは通常料金で作っています。図面も1000枚以上作りました。需要があつて作ったものは他にも需要がある。それが重なって「かてーな!!」のシリーズ展開ができたのです。

◆09年には博物館も作りましたね。

◆06年ごろから自由研究の調べ物で訪ねてきた小学生に天然磁石を見せるなどしており、工場見学に来る人も増えまし

◆ものづくりの担い手を教育の段階で育てたいですね。ものづくりには知識だけでなく「五感」が重要。教育でも体感して学ぶことが大切です。それに子どものような好奇心を持ち続ける大人が増えてほしい。例えば、石が磁石にひっつく。なんでやねん。そういう好奇心を持ち続けると考え方も柔軟になります。ものづくりの現場でも「こんな方法もある、あんな方法もある」と発想できるようにするのがいいです。

か始めようと86年から通信紙「夢通信」を発行し、97年にはホームページ「むらの鍛冶屋」を開設しました。これらは物を売るためではなく、情報を得るアンテナとして考えました。鉄にまつわる話や歴史を定期的に紹介しているという人な方から質問が来ます。例えば設計事務所から鎖の性質について教えてほしい、とかね。人脈作りに役立ちます。

◆その中にはビジネスのチャンスもあるのです。◆「かてーな!!」もそのひとつです。01年4月にバイクのチームの方から「泥棒に盗まれないチェーンが欲しい」とメールが来しました。そのチームにも加わってもらって開発委員会を作り、盗難状況や鍵について調べながら防犯用チェーンを開発し、3カ月後に50セット納品しました。それがバイク雑誌の盗難防止特集に掲載されて注文が殺到しました。模倣品も出回りしましたが、年間売り上げ4000万円の経営のひとつの柱に育ちました。

◆船舶用の技術が生きているのですね。

◆はい。船の係留に使う金具「係船環」と同じ素材を使うなどして、極めて硬くて切れにくいのです。ほかにもいろいろな工夫を加え、多くの道具を使わないと切れない仕掛けにしています。また、駐車場の形状に応じた。

た。知人たちから寄付された砂鉄類や磁石、鉱物なども多く、「鉄のふしぎ博物館」を設けました。約250点の展示があります。今は技術流出を防ぐために工場は非公開ですが、博物館では磁石に石ころが付いたり、磁石に付かないステンレスでも形状が変われば磁石に付くことなどを体験できます。

◆どのような気持ちで子どもたちに接しているのですか。

写真はカラーに変更

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamono.co.jp/catena/ryou@memenet.or.jp>